

『台湾師範大学との英語教育 実践交流プログラム』への協力

— 本校と金沢大学との交流ならびに、台湾師範大学の学生による
All English の授業と台湾での英語授業の実態 —

英語科 荒納 郁美

昨年度末に、金沢大学と台湾師範大学との相互交流が行われたが、そのプログラムに本校も台湾師範大学生の実習先という形、またその後本校教員、私自身であるが、台湾の英語教育を視察するという形で参加した。台湾での授業参観はもちろんのこと、師範大学生の受け入れの際にも大変いろいろなことに気付かされ、勉強させてもらった。この紀要はその記録である。

キーワード：異文化交流 台湾における英語授業

- | | | |
|---|---------|--|
| 1. 「台湾師範大学との英語教育実践交流プログラム」とは | 2月6日(月) | 午前：金沢大学での打ち合わせ
午後：附属高等学校で、6限目と7限目の授業見学 |
| 1. プログラムの目的 | 7日(火) | 一日附属高等学校で翌日の授業プランを練る。また、朝のSHから参加することにより、日本の高校での時間の流れを確認する。 |
| 本プログラムは、金沢大学(責任者 山本卓教授)と台湾師範大学(担当教員 梁孫傑教授)との間の交流プログラムであり、平成23年度初めて実施されたものである。このプログラムは単なる留学プログラムとは違い、英語教員を目指す日本人学生(金沢大学生)と台湾人学生(台湾師範大学生)が相互の国を訪問し、相手国で行われている英語教育実践を体験することによって、英語教育に対する複眼的視点を獲得することを主たる目的としている。 | 8日(水) | 授業実践
(1人が1クラス担当)
1限目：2A(英語Ⅱ)
2限目：2C(英語Ⅱ)
4限目：1C(英語Ⅰ)
5限目：1B(英語Ⅰ)
6限目：2B(英語Ⅱ) |
| 2. 附属高等学校の取り組み | 9日(木) | Taiwan Hour(台湾に関するプレゼンテーション)
65回生が台湾現地学習を控えていたので、各クラス1時間で、台湾人学生に英語で台湾に関するプレゼンテーションを英語で行っても |

らった。

10日（金） 一日大学でのセッション

以下はその記録である。



2. 本校での受け入れ

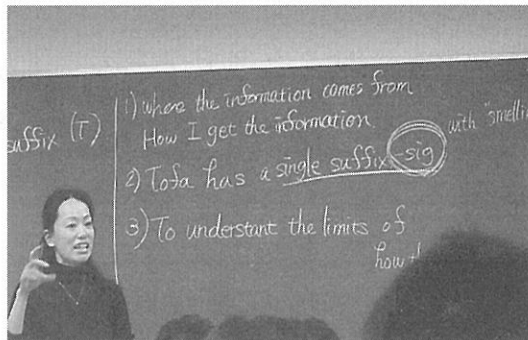
本校では金沢大学からの要請を受け、2月6日から9日までの4日間、台湾師範大生徒5人を受け入れ、それぞれに授業を1時間ずつ担当してもらうことになった。

このプログラム自体は、大学のプログラムであり、その実習先を当校が担うことになったのだが、プログラムに参加している学生たちはもちろん、当校の生徒たちにもかなりよい刺激になったように思う。というのは、台湾と日本とは、英語に関して似た境遇にすることが大きい。つまり、英語は使えた方がよく、学校でも必修科目になってはいるが、英語を使えないと将来絶対困るというわけではない、通常の会話は台湾語で行われる、という面で日本とよく似ているということである。しかし、当校の生徒たちは、台湾人学生5人の優れた英語力にかなり驚いたことと思う。確かに、彼らは台湾師範大学の英語科の中でも優れた学生たちではあったが、彼らはいわゆる英語圏で英語を学んだことがないにも関わらず（そのうち2人は、1ヶ月程度のイギリスでの語学留学はしていたが）、流暢な英語で授業を1時間 All Englishで行ったのである。

また英語力だけにとどまらず、当校の生徒たちに

とっても、台湾人学生との交流を通して、文化交流ができたこともよかった点であろう。

授業見学（1日目） 2C（英語Ⅱ）担当：荒納



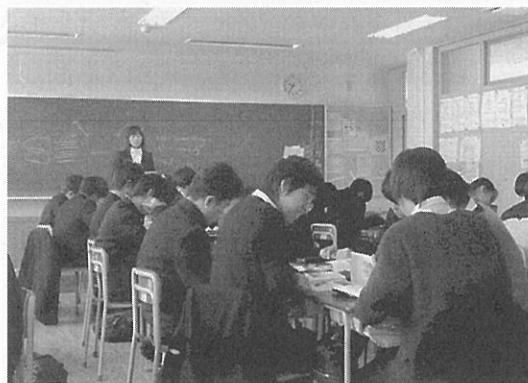
授業準備（2日目） 当校教諭 荒納 郁美

台湾師範大学学生 Sandra



授業実践（3日目：1限目） 2A（英語Ⅱ）

担当者 台湾師範大学学生 Sandra



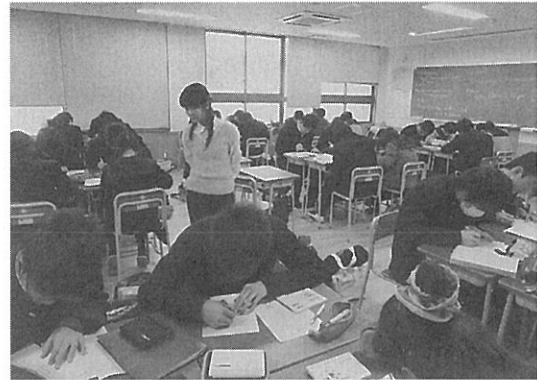
授業実践（3日目：2限目）2C（英語Ⅱ）

担当者 台湾師範大学学生 Lisa



授業実践（3日目：6限目）2B（英語Ⅱ）

担当者：台湾師範大学学生：Tina



授業実践（3日目：4限目）1C（英語Ⅰ）

担当者：台湾師範大学学生：Melody



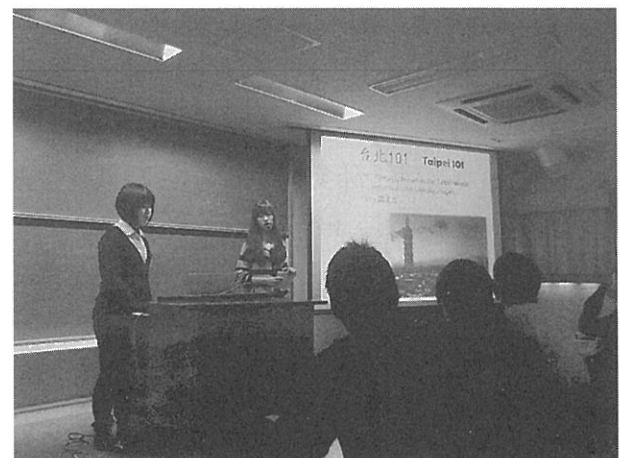
Taiwan Hour（台湾に関するプレゼンテーション：4日目1～3限目）

本校の総合の時間は台湾現地学習とリンクしており、生徒たちは自分たちでテーマを決め、調べ学習をし、現地学習中に台湾での取材を通し、最終的に冊子にまとめる。そのような中、現地学習約1ヶ月前に台湾からの学生を迎えることとなり、ぜひ彼女たちに台湾に関するプレゼンテーションをしてもらおう、ということになった。

プレゼンテーションはAll Englishで行われたものの、スクリーンもあり、題材も現地の食事・観光名所等であったため、生徒たちは自分たちが訪れる地について興味津々聞いていたように思う。

授業実践（3日目：5限目）1B（英語Ⅰ）

担当者：台湾師範大学学生：Anita



1. 授業の内容に関して

5人の学生に、英語Ⅰでは教科書最後のリーディング「葉っぱのフレディー」の一場面、英語Ⅱでは教科書Lesson10の最後のパートPart 5を扱ってもらった。

まず打ち合わせの段階で気付いたことは、彼らが日本の英語教育に対して何も知らないことであつた。その前に授業見学を設けてはあつたが、1時間授業を見て全てを理解してもらう、ということは到底無理な話であり、これは今後このプログラムを進めていく上でも、改良すべき点であつた。そんな中でも、台湾人学生たちはすばらしい授業を展開してくれた。その中で、日本と台湾の英語教育の違いで特に気になった3点について述べたいと思う。

① 単語の扱い方

打ち合わせの段階で、本校教員側から絶対に授業中に扱ってほしいこととして、単語の確認をお願いしてあつた。そんな中、日本の英語教育と台湾の英語教育における『単語』の扱い方の違いが顕著に出てきた。日本では、多くの先生方が予習の段階で単語を調べてくることを推奨したり、もしくは予習プリントを作成し、生徒にやってくるように指示をする。また、調べる媒体は辞書を用いてである。そして、授業の中で、先生によっては予習の有無を確認したり、生徒を呼名して意味を答えさせたり、発音を先生のあとにリピートをかけることで確認したりする。(私自身も、予習プリントを作成し、予習として単語を調べ、一読して、また家でCDを聞くように指示している。授業では、発音のみリピートの形で確認を行う。資料①)ところが、台湾人学生たちに、予習プリントをどうするかの確認を取ったところ、(というのも、準備の日が授業の前日だったため、すぐに印刷して

生徒の下校までに渡さなければいけない状態であり早めに確認をとった。)皆が口をそろえて必要ありません、と答え、むしろ生徒たちには辞書で単語の意味を調べてこないように、という指示を出してほしい、という返答を得た。それでは、どうやって単語の確認を行うのかというと、基本的に5人とも次のような形をとっていた。

(1) ゲーム：新出単語等を用いて、クロスワードや、ビンゴ等をおこなう。

(資料②)

(2) 単語の発音を確認する。(リピート)

(3) 単語の意味を簡潔に英語で説明する。その際には、同義語やボディーランゲージも用いる。

いつもと違う活動で生徒がどれだけ把握できたかは少し疑問が残るが、(3)などは、単語量を増やす面でとても有効であると思う。

② アクティビティの多さ

(授業中の写真参照 P4)

①(1)でも触れたが、基本的に生徒がアクティブに発言することが台湾の英語の授業では求められるようである。そのため、授業自体も初めからグループで集まり、またグループで発言をすることによってポイントを稼いでいく形を皆が取った。そのため単語以外において、様々な形で発話を促す活動を取り入れ、ワイワイと授業が進んでいくようであつた。

③ 文章内容理解の軽視

②にも関わってくるのであるが、本文の内容を扱う際も、単語をおさえてさらっと読んで終わり、といった感じであつた。日本のように文章の内容にまで目を配るということはあまり行っていないようである。

以上①～③の3点に関しては、3. 本校教員による台湾視察でも触れる。

2. 台湾と日本との英語教育の違い

(台湾人学生からの視点とその話を聞いて)

なによりも学生たちが驚いていたのは、日本人学生たちの静かさであった。ここでいう静かさとは、『積極性のなさ』のことであるが、決して生徒たちが英語を学ぶ姿勢が悪いということではない。『発話への積極性のなさ (shyness)』に愕然としていた。3. 本校教員による台湾視察においても触れるが、台湾での英語の授業では、生徒たちが思い思いに発言する姿が見られた。そのため、1. 授業の内容でも触れたような、アクティビティが中心となった授業が展開されることが多いのだと思う。

それでは、いったい何がこのshynessを引き起こすととらえるのか。もちろん国民性もあることと思う。先に述べたように、日本と台湾での英語に対する環境はとてもよく似ている。日常生活で英語を使うことはほとんどない。現地学習に行った生徒たちもよく「日本語のほうが通じた」と言って帰ってくることから伺い知れる。つまり観光という観点からみても、「英語を使わなければ…」という気構えはあまり無いようである。ところが、台湾師範大学の引率教授陣と話してみると、皆驚くほど一様に英語を流暢に話す。また、今回のこの5人の台湾人学生たちは英語を使うことをまったく苦にしていない。日本の大学生で彼女たちぐらい英語を扱える学生はどれほどいるのだろうか？この違いは一体どこから来るのか？

学生に発話能力について聞いてみると意外な答えが返ってきた。

“Many children go to cram school for English.”

“cram school”つまり『塾』に行っている、と

いうのだ。塾ならば日本でも多くの高校生が通っている。しかしそこで英会話ができるようになるわけではない。その辺りの事情を聞いてみると、実は彼女たちが言っていたのは『英会話学校』のようなものであるようだった。要約すると以下のようになる。

- ・台湾には二種類の塾がある。一つは、英会話の塾であり、もう一つは進学塾。
- ・幼いころから、子供たちは英会話の塾に通い始める。
- ・台湾の英会話塾は、英語を母国語とする人たちのみが授業を行い、徹底的に会話表現を学ぶ。また塾内では、いかなる会話も英語で行われる。

日本にも、英会話学校や子ども用の英語教室は存在するが、それとは比較にならないほど台湾の英会話学校は規模が大きく、また教えている内容もずっと高度であるように感じられた。また、そこで英語名を与えられることが多いようであった。

そのような英会話塾では、アクティビティを扱うことが多いことも、発話の積極性につながっているように思う。

3. 学生を受け入れて

このプログラムは先に述べたように金沢大学と台湾師範大学の交流プログラムであり、本校としては、金沢大学に協力という形で参加したのであるが、こちら側としても大変得るものが大きかった。やはり、彼女たちや台湾師範大学の教授方との話し合いの中で、もっと生徒のMotivationを高める必要があることを痛感した。Motivationが低いという語弊があるが、やはり積極性、特に発話への積極性に関しては、まだまだ低いのが現状である。そのために、ゲームなどを随時取り入れていくことは効果的なのではないかと思った。特に必ず確認をしなければいけない『単語』にお

いてゲーム等を用いることは大変参考になった。そしてそのゲームもまた発話を促すものでなくてはならないと感じた。しかしまた「授業が楽しく、時間がすぐ過ぎていく活発な授業だな」という感覚を受けつつも、もっと内容を見ることもあってしかるべきだ、という考えももった。

5人の台湾人学生たちは、強行スケジュールの中、持ち前のバイタリティーと明るさとそして優れた英語力とで、すばらしい授業を展開してくれた。それらは生徒たちだけでなく、本校教諭にとっても大変勉強になった。このプロジェクト（日本版）が成功したのは紛れもなく彼女たちの努力によるものであり、大変感謝している。



3. 本校教諭による台湾視察

このプログラムは、台湾師範大学と金沢大学の交流プログラムであるので、次は金沢大学生が台湾に出向き、授業を行う番である。金沢大学からも5人の学生が2月27日～3月9日の2週間で、授業見学・授業準備・授業展開を行った。

ここでは、本校とのつながりはないはずであったが、幸いなことに、金沢大学の教授方とともにこのプログラムの最後2日間に参加し、現地の先生方の授業を参観する機会を得た。日程は次のようであった。

3月8日 午前 仁愛国民中学 訪問
午後 台湾師範大学附属高等学校
訪問

3月9日 午前 反省会
お昼～ 終了セレモニー

3月8日の中学校・高等学校の訪問では、どちらの学校も南国造りになっており、廊下が外に面していることによりかなり違和感を覚えながら、台湾の授業を拝見した。このように外国での英語の授業を参観するのは初めてのことであり、また特にレベルの高い学校の授業を参観して、大変勉強になった。

1. 仁愛国民中学

中学2年生の授業を2コマ参観した。教科書は、日本と同じで、レッスンごとに学ぶべき文法項目を含んだダイアログが書かれており、その文法項目を用いた練習がその後が続いていた。カラー版で、何人かの登場人物の日常を描かれているところは日本の教科書ととてもよく似ていたが、パッとみた印象では、日本の中学校の教科書よりもずっとダイアログが長いようであった。1コマ目は、ちょうど1レッスンが終わったところだったため、最後のまとめの応用練習であった。2コマ目は、通常授業を参観した。

・1コマ目

ちょうど最大級に関するレッスンが終わったところだったので、先生の手製のプリントで授業が行われた(資料③)。プリントには、たくさんの『一番』に関する問題があり、インターネットを用いて、それらの正解を探し出し、プリントに書き込む、という形であった。まず、5人前後のグループを作り、それぞれのグループに一台のノートパソコンが用意された。(先生は、授業にノートパソコン専用の小型のスー

ツケースを持参する。基本1クラスに8台+1台(先生のマザーパソコン)が用意されている。)そして子どもたちは、一斉に検索エンジン等を用いて、情報を集めていった。

授業の指示は全て英語でされていたが、グループワークになった途端、メンバー同士で話す言語は全て中国語であった。また、検索においても、英語で探しているグループもあったが、中国語で探している生徒たちも目立った。気になったので、先生に聞いてみると、先生の方から生徒たちに、『最終的には、プリントに英語で書くのだから英語でした方がいいよ』、とのアドバイスが英語で入った。やはり英語で行われていても、生徒どうしの会話になると母国語ができてしまうのだな、と感じた。また、グループ作業でもう一つ問題となるのがグループ間に作業速度の差がでることであるが、マザーパソコンでは全てのパソコンが何をしているかを確認できる作りになっているため、先生から適宜それぞれのグループに指示が入っていた。

この授業で印象に残ったのはやはりネット環境のすばらしさである。教室で使えるノートパソコンのみならず、どうやらiPadも用意されているらしい。このような機器は、使いようによってはとても授業で活躍してくれるし、その可能性の片鱗を見たような気がした。

・2コマ目

教科書を用いて、次のレッスンに進んでいた。授業の流れとしては、

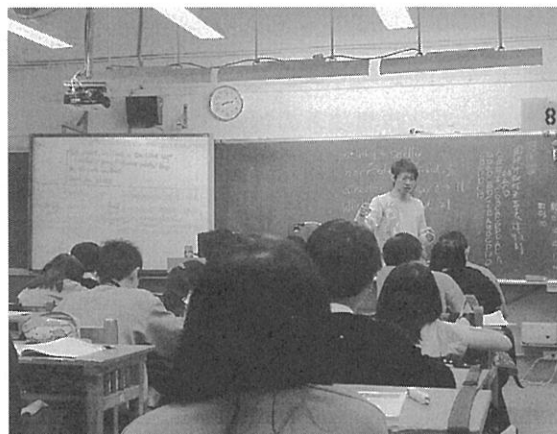
- ①デジタル教材を用いて、一度ダイアログを動画で確認。
- ②単語の確認
意味の確認(同義語を生徒から引き出す)
発音の確認(先生のあとにリピート)

③先生が口頭で、ダイアログに関する質問を3~4個与える。

④デジタル教材を用いて、もう一度ダイアログを確認。③の答えを生徒から引き出す。

⑤教科書音読(先生のあとにリピート)

という流れであり、日本の中学校でも同じような形がとられているのではないかと思った。違いといえば、全ての指示が英語でなされ、意味の確認等においても、基本的には、英語で確認が行われていたことであろう。そして、一番の違いはやはり視聴覚教材の充実ではないかと思う。全てのクラスには、デジタル教材が使える環境が整えられており、生徒たちは、アニメを見るような形で、教科書を学ぶことができていた。また、教科書自体をスクリーンに映すことができるので、生徒たちの顔はよく上がっており、先生が黒板に書く文字は最小限で済んでいた。



以上2コマの授業を参観して台湾の中学生の語彙力の高さと、授業中の発言の多さに驚いた。確かに、生徒たちが勝手に話出してしまうところがあったが、それらは先生の英語の指示を的確に捉えているからできることであり、生徒たちの発話に対する積極性がよく出ていた。また、単語力に関しては例えばこんなことがあった。ダイアログの中に“kind”とう単語が出てきた。これは日

本の中学生にもなじみ深いものであり、意味を聞けば「優しい」という意味だとすぐに返ってくるであろうが、この仁愛中学では、先生が
“What’s the meaning of “kind” ?
 (“kind” の意味はなんですか?)” と尋ねると、
“generous” と生徒は返す。いったいどれだけの日本の中学生が “generous” を知っているだろうか? また、いったいどれだけの高校生が “kind” の類義語として “generous” を持ち出すことができるだろうか、と少し考えこんでしまった。

2. 台湾師範大学附属高等学校

台湾師範大学附属高等学校は、台湾の高等学校の中で National Taichung First Senior High School (第一高級中学) につぐ高等学校である。トップ層の生徒たちが集まるが、校風には「自主自立・自由」を掲げており、生徒たちは在学中に様々なことに挑戦し、卒業後も様々な分野で活躍している。

そのような高等学校で、3年生の理系医学進学コースの2時間続きの授業(ただし、途中長めの休憩が入る)を参観した。

・教材

市販の教材であり、全て All English で書かれている。レッスン毎に分かれており、各レッスン4~5ページの英文が載っており、その後3ページほどを用いて内容に関する質問(True or False / Multiple Choice etc)、単語の定義とその単語を用いた例文が約5ページ強に渡って載せてある。

・生徒層

先にも述べたが、少し特殊なクラスであった。3年生の理系医学進学、つまり台湾師範大学附属高等学校の中でも、優秀な生徒が35名強集まるクラスである。

・1コマ目

まず目を引いたのは、教室の真ん中にある生徒であった。彼は黒い帽子をかぶり、黒いマントを羽織っており、そして肩についた糸が天井まで伸びている…。よく見ると、黒いマントはゴミ袋を破いたものであり、生徒が人体模型を使って作り出したダミー君であった! 周りの子が糸を引くことでダミー君は手を挙げることができ、この授業も次の授業でも大活躍する。どうやら、その週末が記念祭だったらしく、学校の至るところで、様々な催しの準備が進められていた。

ダミー君は置いておいて、この1コマ目は一言で言うと『単語ゲーム』で終わることになる。順番としては次のような形であった。

①先生が教室を右と左で2つに割り、それぞれで競う形をとらせる。先生は生徒の番号が書かれたくじを引き、当たった生徒は次のことを行う。

1) 当該レッスンに出てきた単語を一つ述べる。

2) その単語の綴りを述べる。

この時点で、その生徒がいるグループは1ポイントをゲットできる。

3) 先生からその単語を使って文章を作ること

に挑戦するかどうか尋ねられる。ここで、例文を作り出すことができるとそのグループはさらに1ポイント得ることができる。このゲームは生徒全員に当たり次第終了となる。

②次のゲームは先生が用意してきた当該レッスンに出てきた単語が書かれたカードを用いて行われる。各グループから一人前に出てきて、カードを受け取る。次にそのカードを受け

取った生徒は、一枚ずつめくりながら、自分のグループの生徒たちに、英語で定義や意味等を与えることで、その単語が何であるかを当てさせる。このゲームは制限時間を設け、その中でどれだけの単語を当てることができるかで、競わせる。

以上2つのゲームで1コマ目終了となった。ちなみにゲームの最中は、(一応)教科書を見てはいけないうことになっていた。

この授業を参観して感じたことは、何と言っても生徒たちの語彙力の豊富さである。また自発精神もすばらしく、特に、生徒たちが作った例文の質の高さに圧倒された。

・ 2コマ目

この時間は、1コマ目で確認した単語のテストから始まる。単語テスト自体は、私たちが日本で用いている基本的なもの変わらないものであった。その後、教科書を開いて、先生がところどころで「これはこういう意味だね。」ということをはさみながら、教科書を読んでいった。

3. 台湾視察を終えて

どちらの学校も、すばらしい先生方と生徒たちだという感覚を受け、そのような学校を視察できたことに大変感謝している。この視察で気付いた点は以下の3点である。

第1点は、『生徒のモチベーション』に関してである。台湾師範大学の教授方が本校の授業を参観して一番驚いていたし、変えるべきだと言われていたことは、生徒たちが、授業中の発話に消極的であることであった。もちろん、国民性の違いもあるし、何より台湾師範大学生が授業を行った時は、生徒側も先生側(学生側)も初対面であつ

たため余計に生徒たちはシャイになっていたと言わざるをえない。しかし、日本の教育では生徒が受け身であることが多いことは否めないし、それは英語においても言えることである。先生がいくら英語を使ったところで、生徒からの自発的な英語使用が無ければ、生徒たちの英語運用能力は上がっていかない。

それでは、どうやって生徒の積極性を高めることができるのか。確かに、台湾の生徒たちの授業での発言度はとても高かった。しかし、どちらかというと勝手に話はじめたりすることも多く、英会話学校のような雰囲気特に中学校では感じられた。これはおそらく先にも述べたように、多くの子供たちが英会話専門の塾に幼いころから通っているせいもあると考えられる。そのため、台湾で参観した授業をそのまま日本で実施したからといって、生徒たちに同じような発信を期待するわけにはいかない。しかし、ゲームのような要素で、生徒がもっと発信しやすい環境を整備することを考える必要があると感じた。

第2点は、授業の考察の際にも触れたが、台湾の生徒たちの単語量の多さである。私は、英語を学ぶ上での基礎は何よりも単語と文法であると思っている。私たちが日本語をツールとして用いることができるのも、豊富な単語量とそれを支える文法があるからである。それではどうして台湾の生徒たちは日本の生徒たちに比べて多くの単語を知っているように感じられたのか。もちろん、英会話塾の存在もあるだろう。しかし、学校での授業についていえば、台湾師範大生たちが本校での指導の際にも言っていたように、英和辞書(和英辞書はいわずもがなだが)だけに頼らない単語調べというのも大事なのではないかと感じた。類義語や同義語を用いることで、感覚的に単語に触れさせ、またボディーランゲージや絵を用いて視覚的にも考えさせる。この点で言えば、やはり辞

書での単語調べというものの意味がかなり薄いものになるのではないかと思う。私自身、生徒には英英辞書での意味調べをすすめているが、単語を派生させて覚える必要性を強く感じた。

第3点は、教員の英語力の高さである。今回の研修では上記で述べた先生方以外の先生方にもお会いすることができたのだが、みながとてもすばらしく流暢な英語を話されていた。そしてもっと学ぼうという姿勢を持たれていることに感銘を受けた。やはり教える側も日々勉強をし、より質の高いものを提供する必要があることを痛烈に感じ、そのことが何よりの収穫であったように思う。

4. 最後に

台湾師範大学生の受け入れから、台湾での研修と日々が怒涛のように過ぎ去っていったが、得るものは大変大きかった。台湾師範大学生の受け入れの際には、台湾と日本との英語教育の違いに驚きつつも、彼女たちの英語力に身のひきしまる思いだった。また生徒たちにとっても異文化交流だけではなく、日本語が使えない先生に英語を教わるというなかなか体験できない授業を通して、何か響くものがあったのではないかと考えている。台湾研修に関しては、外国の英語の授業を現地で見させていただくという貴重な体験を通して、様々なことに気付くことができた。

このプログラムが成功を取めたのも、このプログラムに関わった方々皆が「成功させたい!」という強い思いを持っていたからであり、その一端を担えたことに大変な喜びを感じている。台湾師範大学の梁孫傑教授、曾文鏗副教授そして、5人の学生たち(Melody, Lisa, Tina, Anita, Sandra)、授業を見せてくださったVictor Ming-Ta Wu先生(仁愛中学校)とLena Yu-Hsuan Chao先生(台湾師範大学附属高等学校)、他このプログラムに関係して下さった多くの方々、そして金沢大学の山本卓教授に

は本当に感謝をしている。また、研修に行く環境を作ってくださった本校全教員にも感謝を述べたい。



LESSON 10

ENDANGERED LANGUAGE

PART 4

1 Many languages use suffixes / to define the truth value of a statement. 2 Hidatsa and other languages in its language family / stand out / by having as many as 18 of these markers.

3 In Hidatsa, / for example, / the basic sentence "the man kissed the woman" is built / using the words *macee* for man, / *wia* for woman / and *igiracoochi* for kiss. 4 But / a Hidatsa speaker would have to explain / how he or she came upon this information. 5 If the speaker witnessed the event and knows it for a fact / then markers would be added / to make the sentence read "macees *wiaha* *igiracoochivareec*." 6 But / if the speaker is telling a traditional story / passed down through generations, / the final marker would change, / making the sentence / "macees *wiaha* *igiracoochivareec*." 7 At Swarthmore College, / Harrison has spent years / documenting rare languages in Siberia. 8 He made an interesting discovery. 9 Toha has a single suffix, *-sig* / that can be added to any noun, / changing it into a word / that means "smelling of" or "smelling like." 10 For instance, / the word for reindeer in Toha is *vi*, / so *vi-sig* means "smelling like a reindeer." 11 Linguists argue / that little pieces of information like this are essential / for understanding the limits of / how the brain organizes language.

New Words

suffix(es)	(n/C, grammar)	←prefix	both are affix
define	(v/D)		
statement	(n/C)		
marker(s)	(n/C)	(v/D) mark	
kiss(ed)	(v/D)		
witness(ed)	(v/D)	(n/C)	
discovery	(n/C)	(v/D) discover	
argue	(v/I + with, about, over)		
for a fact			
come upon (v/D)			

Try 日本語の意味になるように、.....に適當な語を New Words から選びなさい。

- an accident [事故を自覚する] [大発見をする]
- make a great..... a word [言葉を定義する]
- against [〜に反論する]

*予習：単語を調べ、授業前にしつかりとCDを聞き、音読すること。

Reading Practice

Many languages use suffixes () define the truth value () a statement. Hidatsa and other languages () its language family () () having () () () 18 () these markers.

() Hidatsa, () (), the basic sentence "the man kissed the woman" is built () the words *macee* () man, *wia* () woman and *igiracoochi* () kiss. But a Hidatsa speaker would have to explain () he or she () () this information. If the speaker witnessed the event and knows () () () (), then markers would be added () make the sentence read "macees *wiaha* *igiracoochivareec*." But if the speaker is telling a traditional story () () () () generations, the final marker () change, making the sentence: "macees *wiaha* *igiracoochivareec*."

() Swarthmore College, Harrison has spent () documenting rare languages () Siberia. He () an interesting discovery. Toha has single suffix, *-sig*. () can be added () noun, changing it () a word that means " () () or " () () ." For instance, the word () reindeer () Toha is *vi*, so *vi-sig* means "smelling () a reindeer." Linguists argue () little pieces () information () this are essential () understanding the limits () () the brain organizes language.

LESSON 10 ENDANGERED LANGUAGE PART 4

What is the connection PART 4 has with Part 1, Part 2 and Part 3?

[1] Many languages use **suffixes** / to **define** the truth value of a **statement**. [2] Hidatsa and other languages in its language family / stand out / by having as many as 18 of these markers.

[3] In Hidatsa, / for example, / the basic sentence "the man **kissed** the woman" is built / using the words macee for man, / wia for woman / and iigiracooibi for kiss. [4] But / a Hidatsa speaker would have to explain / how he or she came upon this information. [5] If the speaker **witnessed** the event and knows it for a **fact**, / then markers would be added / to make the sentence read "macees wiaha iigiracobihoorees."

[6] But / if the speaker is telling a traditional story / passed down through generations, / the final marker would change, / making the sentence: / "macees wiaha iigiracooihwareec."

[7] At Swarthmore College, / Harrison has spent years / documenting rare languages in Siberia. [8] He made an interesting **discovery**. [9] Tofa has a single suffix, -sig, / that can be added to any noun, / changing it into a word / that means "smelling of" or "smelling like." [10] For instance, / the word for reindeer in Tofa is iwi, / so iwisig means "smelling like a reindeer." [11] Linguists **argue** / that little pieces of information like this are **essential** / for understanding the limits of / how the brain organizes language.

★Step 1★ Check the pronunciation of new words.

★Step 2★ Listen to the teacher and get the clear image of Part 2.

★Step 3★ True or False

- 1) Hidatsa _____ ()
- 2) The word order of Hidatsa is _____ ()
- 3) You can use a suffix, -sig, when you want to translate " _____ ()
" into Tofa. ()

★Step 4★ Answer in English.

1) When you speak Hidatsa, according to the textbook, what should be included in a sentence?

2) What did Professor Harrison discovered about a language in Siberia?

3) According to some linguists, what do little pieces of information of a language help us to do?

★Step 5★ Reading Practice

★Step 6★ Further Exercise

A) We have to think what we are going to play for the graduation party. Do you have any idea?

B) Well, how about _____

A) Sounds interesting! How did you () () such a nice idea?

B) Well I got an inspiration from the story () () in my family. My grandmother told me about it. To my surprise, she knows () () () that it happened long ago. Her grand (mother / father) experienced it.

A) Wow. It doesn't sound real, but I think the fact that it really happened will help us. It is () () actors to play realistically. It makes the play catchy.

B) That's true. Let's find other stuff and ask them how they think about it.

★Step 7★ Summary

多くの言語は真の語義を表すのに ㉑ () を用います。ヒダツツ語では、出来事
を ㉒ () が見て知った場合と、受け継がれてきた伝説的な ㉓ () を
語る場合とでは、符号が異なります。シベリアのある言語では、-sig という接尾辞を付けた「
のようなにおいがする」という意味になります。こういった小さな ㉔ () が、脳が
言語を組み立てる際の限界を理解するのに不可欠なものであると言語学者は主張します。

So, what is the main idea we have to get through this passage?

資料③

English Book 4
Worksheet 2.1
Teacher: Victor

Class _____ # _____ English Name _____

Score _____

Chinese Name _____

Part A. Superlative quiz (Hint: Log on to the web site of Google, Wikipedia or Guinness World Record to search for the answer.)

1. Who has the world's longest hair? How long is it? a) _____ b) _____
2. Who is the world's tallest man? How tall? a) _____ b) _____
3. What kind of dog is the smallest dog? How small? a) _____ b) _____
4. What kind of dog can hold the most tennis balls in the mouth? How many?
a) _____ b) _____
5. Where did the man find the clover with the most leaves? How many leaves?
a) _____ b) _____
6. How heavy is the heaviest apple on earth? _____
7. What is the highest mountain in the solar system? How high? Where?
a) _____ b) _____ c) _____
8. What is the largest planet in the solar system? _____
9. What planet has the most moons in the solar system? _____
10. What animal lives the longest? _____
11. What is the fastest land animal on earth? _____
12. What is the smallest country around the world? _____
13. Taumatawhakatangihangakoauauotamateaturipukakapikimaungahoronukupokaiwhenuakitanatahu is the longest place name in the world. How many letters are there? What does it mean in English?
a) _____ b) _____
14. What's the longest English word in the dictionary? Write it down. What does it mean in Chinese?
(Hint: It has 45 letters.)
a) _____
b) _____
15. Twoallbeefpattiespecialsaucelettucecheesepicklesonionsonasesameseedbun is the name of a kind of food sold at McDonald's. This word first showed up in a TV commercial in 1975. It is the longest name of all food so far. In fact, it has a shorter name now. What is it? _____



Part B. Make your own quiz using superlatives

1. _____
2. _____
3. _____